

事例紹介

災害時の拠点としての機能を確保

事業所 名称	医療法人 青雪会	施設概要	パネル：12.0 kW パワコン：10.3 kW 蓄電池：7.4kWh
施設名	富永内科	電力使途	平常時：医療施設の電気、空調、医療機器、PC 停電時：医療施設の電気、空調、医療機器、PC
所在地	鹿児島市西伊敷	発電開始	令和5年2月

取組のきっかけ	電気を購入している事業者から発電設備設置の提案があり、導入を決めた。経費削減やCO2削減につながることで、災害時のインフラ整備のために取り組んだ。
事業の取組方法	自家消費・余剰分売電に太陽光発電設備及び蓄電池を整備した。 太陽光パネルは消費施設の屋上に設置している。 売電契約（九州電力）はしている。FIT契約はしていない。
事業の成果	電気代（使用料そのもの）の削減に加え、停電時も電力が使用できるという安心感があるが、実際の停電がまだなくメリットとしては多少感じているという実感である。
課題	特にない。
今後の展開	今のところ十分であり、新たな展開の予定はない。

年間増収効果

年間CO2削減量

約63万円
(電気料金の変化から算定)

8.5トン

注目ポイント

- ・医療機関として停電時でも機能を止めないように、適切な規模の設備を設置（平時余剰売電が少し発生する規模）
- ・パネル1kWあたりの発電効率が約1800kWh/kWあり、高効率となっている。



←パワーコンディショナー



↑
設置施設（屋上に太陽光パネル）